

愛知県公契約に関する協議の場 主な発言要旨

- 日 時 令和3年1月6日（水） 14時～15時25分
- 場 所 アイリス愛知
- 議 題 愛知県公契約条例の取組状況等

■主な発言

- 社会的価値の実現について、各局からの要望だけでなく、全体を見渡した総合的な判断での評価項目の追加もあり得るのではないかと。
- 労働環境報告書の内容と、実際の労働環境とのチェックは必要だと思う。
- 県の公契約条例制定から5年が経過し、県内でも条例を制定する市町村が増えてきている。様々な意見があることは承知しているが、労働環境報告書の取組は理解した上で、賃金条項は必要であると思っている。県には市町村の見本になってほしい。
- 社会的価値には様々な種類があり、なるべく多くの評価項目を幅広に取り入れていくことは望ましいと思う一方、条例制定から5年が経過し、より実効性を伴った評価にシフトしてもよいのではないかと。
- 社会的価値の現在の評価項目について、大企業と比べ、中小零細企業では認証等を取得することが難しい。企業規模に応じ評価をした方が、企業にとっても実現可能な目標となり、定着するのではないかと。
- これからは企業が余力として社会貢献するのではなく、企業活動そのものが社会貢献につながるような思想に切り替えないといけない。認証等の取得が最終目標ではないというメッセージを企業に伝える工夫をしてほしい。
- 県の政策推進は理解しているが、一定の条件を満たせば取得可能で、かつ継続にコストがかからない県の施策に係る評価項目を取得した企業が、本当の意味で社会的価値のある企業とみなされるかということと必ずしもそうではないのではないかと。維持費用はかかるが国際的に認められたISOなどとの両面から取り組むべきではないかと思う。

- コロナ禍に直面し、清掃業界は大きな転換期を迎えた。民間では綺麗か汚いかではなく、衛生的か衛生的でないかが問われるようになった。しかし、官公庁の仕様書は何十年前とほとんど変わらず、前例踏襲の予算であることに疑問を感じる。
- 実際に入札に参加した業者の認証等取得状況を把握するとよいのではないか。入札参加者がほとんど取得している認証等（評価項目）であれば、見直しも考えられる。
- SDGsは、今後企業経営において非常に重要な視点となる。いま企業にとって大事なことは、自らの取組がSDGsにどう関わっているかを認識することであり、社会的価値の実現に係る評価項目とSDGsの関係を明確にするとよい。
- SDGsの視点で県の評価項目をチェックしてみることも有効である。そうすれば、県の取組が独りよがりのものでなく、世界的に評価されているものを取り入れているということに繋がる。
- 様々な議論を経て条例が制定されたが、その後も建設業界では、予定価格の適正な決定や低入札問題を気にするわけでもなく、入札が不調不落にならないように苦心してきた。
- 今や企業経営において、SDGsは避けて通れない。県の評価項目がSDGsとどう関係していくか、という観点が必要である。
- 建設業界では、賃金を上げても若年層がなかなか入ってこないのが現状である。今回のコロナ禍の影響によるサービス業等の離職者の動向は、大きな関心事項である。

以 上